



# 四国大学同窓会

Shikoku University Alumni Association



## 建学の精神を大切に

同窓会会長 菅野 胤子

心地よい秋風の吹く好季節になりました。大学を訪れるたびに校庭の楓の木の四季折々に変化する葉の美しさに心がときめきます。

近代的な施設・設備を整え、着々と様変わりする美しい学び舎、その中で真剣に学習する後輩の眼差しからは躍動感が感じられます。

最近は多様な生き方の中で自分らしく生きることが求められています。それだけに今、保・幼から小・中は勿論、高校・大学・大学院と縦・横の連携をとりながら四国大学の目指す教育を行っています。そのために教職員の先生方は「実生活で役立つ専門知識や技術の修得と実践力の養成」「豊かな人間性をもつための幅広い教養と倫理観・道徳観の育成」「課外活動や大学行事での交流やさまざまな体験を通して、自信と積極性を身につけること」の三点に重点を置いて、きめ細かな指導をしてくださっています。大学の建学の精神「全人的自立」は「知識・技術の修得とともに、人間的な成長を志向し、社会に貢献できる実践的な力を確立すること」であります。

平成18年度には文部科学大臣の指定する認証評価機関から

「適合」「適格」と認定されるなど四国大学の教育理念とその成果が評価されています。これこそ地域社会の期待に応える大学として発展している証明でもあります。

今年度は看護学部の誕生に加え、英語文化学科は「国際文化学科」と学科名を変更し、「国際文化コース」と「英語コミュニケーションコース」の2コースに、生活科学科も「生活心理コース」と「デザインコース」の2コースに変更されるなど、時代のニーズに合った学部、学科の見直しもできました。それに伴って、今年1月に完成した中央棟は10階建てのゆとりある学び舎となりました。その外観はパリの「凱旋門」を思わせるようで、教育の専門知識と実践力がここから発信されているように思います。

私たち同窓生はきめ細かくご指導してくださった先生方や関係者の方々に感謝するとともに、建学の精神をバックボーンに職場、家庭、地域社会で活躍したいものです。親子二世帯、やがて三世帯、兄弟姉妹が四国大学の同窓生としてあらゆる分野で活躍されるほほえましい姿もだんだんと増えてきました。本当に喜ばしいことです。

皆様のご健勝と大学の益々の発展を祈念します。